

有病者の歯科治療について

近年、平均寿命が延び、高齢の方が歯科を受診する機会が増えてきています。また、いわゆる「生活習慣病」やその他の病気を有する方もたくさんいらっしゃいます。そのような方が歯科受診時に注意しなければならないことを挙げてみます。

1：高血圧

- (1) 治療日は内服薬を忘れずに服用してから来院して下さい。また服用中の薬またはそのリストをご持参ください。
- (2) 血圧が高いのに、内科で治療を受けておられない方へ。
血圧の上昇により、脳出血をおこしたり、心筋梗塞をおこしたりすることがあります。歯科治療が緊張感、不安感を与えることになり、普通の人でも血圧が上昇します。内科的治療を受けておられない方は、特に著しく変化することがあります。内科的治療を受けて、血圧をコントロールし、安全に歯科治療を受けましょう。
- (3) ある種の降圧薬の長期連用によって、歯肉が肥大してしまうことがあります。歯肉出血が気になる人は薬が原因の場合が考えられます。この副作用は、他の降圧薬に変更してもらうと緩解します。

2：狭心症、心筋梗塞

- (1) 治療日は内服薬を忘れずに服用してから来院して下さい。また服用中の薬、またはそのリストやお薬手帳をご持参ください。
- (2) 発作にそなえて、ニトロの錠剤かスプレーを忘れずに持参して下さい。
- (3) 抗凝固薬（血液をさらさらにする薬：ワーファリン、プラビックス、バファリンなど）を内服している場合は、出血が問題となるので、申し出て下さい。
- (4) 「心臓が悪いから。麻酔が出来ない」というのは間違いです。麻酔は上手に使い、心臓に与える影響は少ないものです。逆に、麻酔をせず痛いほうが心臓に悪影響を及ぼすといわれています。安心して、来院してください。

3：心臓弁膜疾患、先天性心疾患

- (1) 細菌性心内膜炎の発症を予防するために、抗生物質を治療前に飲んでいただくことがあります。その際には指示されたとおりに、必ず服用してください。
- (2) 抗凝固薬（血液をさらさらにする薬：ワーファリン、プラビックス、バファリンなど）を内服している場合は、出血が問題となるので、申し出て下さい。
- (3) 心内膜炎になるのが怖いから、歯科治療を受けないという考え方は間違いです。逆に、感染源が残ったままですと、いずれ心内膜炎を起してしまう可能性があります。弁膜症のある方は、特に感染源を無くするためにも歯科治療を受けてください。

4：ペースメーカー装着者

直接心臓に電気刺激を与えて、心臓のリズムを保っていますので、電気メスや電氣的に歯根の長さを測る装置が使用できません。治療前に必ず申し出て下さい。

5：脳梗塞、くも膜下出血、脳出血

- (1) 治療日は内服薬を忘れずに服用してから来院して下さい。また服用中の薬またはそのリストをご持参ください。
- (2) 抗凝固薬（血が流れやすくする薬：ワーファリン、プラビックス、バファリンなど）を内服している場合は、出血が問題となるので、申し出て下さい。